「自分から」つくる　みんな笑顔の山目小

やまのめ

一関市立山目小学校　校報　№31
2024. 3. 7　文責:校長　菊池

◆ 祝　150周年 ◆

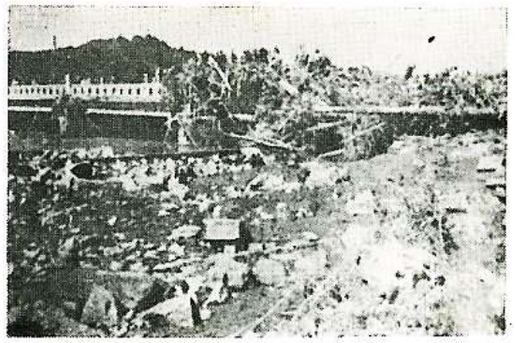
洪水からの復興を支えた山目小

～台風巨大化、集中豪雨の増加に備える意識を～

一関は北上川の川幅が急激に狭まる地形等から、大昔から洪水の常襲地帯でした。終戦２年後のカスリン台風、３年後のアイオン台風により、山目地区を含む一関は２年続きで壊滅的な被害を受けました。

カスリン台風　昭和 22（1947）年９月
死者 130 名（一関 100 名）　住宅被害 42,161 戸
アイオン台風　昭和 23（1948）年９月
死者 393 名（一関 234 名）　住宅被害 33,646 戸

この大洪水で、本校は被災者の避難所や今でいうボランティアの宿泊所になっています。また、教員が市の炊き出しに出動したことや、被害の大きかった一関小学校の救援作業に５・６年児童 80 名が参加した記録も残されています。


【アイオン台風被害　磐井橋山目側】

今は、遊水池等の防災対策により、洪水は起きにくくなりました。だからこそ温暖化に伴う台風の巨大化や集中豪雨の増加に備える危機意識をもっておく必要があります。

3.11 東日本大震災から 13 年

命を守り　前へと進む

平成 23（2011）年３月 11 日の東日本大震災から 13 年となります。3月 11 日は、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様、懸命に復興を進められてきた皆様に心を寄せる一日にしたいと思います。

学校でも当日は、避難訓練を行なうとともに、震災発生時刻の午後２時 46 分には黙祷をささげます。震災を語り継ぎ、命の尊さを確かめる１日にしてまいります。

小学生にとって震災は生まれる前の出来事です。間もなく卒業する６年生も、震災直後に生まれてきた子どもたちです。きっと、６年生のお母さんお父さん、ご家族は、震災の混乱や悲しみの中、この子たちが無事生まれることを祈ったに違いありません。そして、誕生を喜ばれたに違いありません。あの時生まれてきた子どもたちが中学生になります。

大人が繰り返し語り継ぎ、命の尊さを心に刻むことで、かけがえのない命を守り、前へと進む気持ちを子どもたちにもたせたいと思います。

【震災前の美しい高田松原海岸】

家で　お子さん一人でも　避難できますか？

学校にいる時間は　たった２割弱

毎年この時期、次のことを呼びかけています。

以前勤めた沿岸の学校は、海にも川にも近く、震災でも津波被害を受けた場所にありました。そのため、学校での訓練に加え、家庭や地域に呼びかけてきたのが「家でお子さんが一人でも、避難できますか？」でした。

一関は津波の心配はありませんが、地震等の災害や火災、通信の不通はどこでも起こります。

私たちはどうしても日中のほとんどを、子どもたちは学校で過ごしていると思いがちです。しかし、学校にいるのは長くても１日８時間。また、年間の授業日数は 200 日ほどです。

【小学生が学校にいる時間】

１日８時間 × 200日 ＝ 1600 時間
１年間の合計は、8760 時間ですから、
1600 ÷ 8760 ＝ 0.1826‥‥

◇　小学生が学校にいる時間は、１年間の２割弱しかありません。
◇　８割以上の時間を、小学生は学校以外の家などで過ごしています。
◇　忘れてはならないのは、春・夏・冬の長期休みは、子どもが一人で過ごす場合も多いことです。

3.11 のこの機会に、ご家族で次のことを確かめてみてみませんか。

① 家の周りにどんな危険がありますか？
② どこに避難すればよいですか？
③ 誰に助けを求めますか？
④ 家族はどこで待ち合わせますか？